

2025年度 図書貸出トップ10 (2025. 4～ 2025. 10)

順位	クラス	貸出冊数	順位	クラス	貸出冊数
1 位	1-4	81冊	6 位	1-3	52冊
2 位	1-6	77冊	6 位	1-7	52冊
3 位	1-5	73冊	8 位	1-2	51冊
4 位	1-8	60冊	9 位	1-1	47冊
5 位	2-2	53冊	10 位	1-9	44冊

10月7日 [双星ビブリオバトル決勝大会]



発表:K・Y

推薦本:『芋虫』



発表:R・K

推薦本『また必ず会おうと誰もが言った』



発表:K・N

推薦本『二木先生』



『二木先生』

夏木志朋/著

ポプラ社



発表:R・H

推薦本『ナイトメア・ビフォア・クリスマス』

観客のみなさんが一番読みたくなった本の投票の結果、K・N さんの発表した『二木先生』がチャンプ本に決まりました。

K・N さんは 12 月 14 日「全国高等学校ビブリオバトル兵庫県大会」(甲南大学)に出場します。応援よろしくお願いします。

★★★★★★★★★★★★★★★★新 着 図 書 案 内★★★★★★★★★★★★★★★★

『我らが緑の大地』

荻原 浩/著

KADOKAWA



ベンチャー企業、グリーンプラネットに勤める野乃は、植物のコミュニケーションについて研究している。植物にも驚くべき「知性」があることがわかってきた。そんな中、企業の農場を視察にきた農業会社の社員が大豆を食べて緊急搬送されて……。

『名探偵たちがさよならを告げても』

藤 つかさ/著

KADOKAWA



教師の傍ら作家として活躍した久宝寺が亡くなった。恩師である久宝寺の後任として母校に赴任した辻玲人は、彼の遺稿を入手する。「探偵」になるのが夢だという女子生徒・あずさと協力して、遺稿の続きを探す玲人。しかし校内で女子生徒の死体が発見され、その死の状況は遺稿プロットとまるで同じだった。

『小さな神のいるところ』

梨木 香歩/著



毎日新聞出版
まっすぐに見つめる。止まらぬ気候変動、消えゆく懐かしい景色。日常を超えた領域を流れるくもうひとつの時間…自然の一部である私たちの核心を追うエッセイ。

『透明な夜の香り』 千早 茜/著

集英社



元・書店員の一番は、古い洋館の家事手伝いのアルバイトを始める。そこでは調香師の小川朔が、幼馴染の探偵・新城とともに、客の望む「香り」を作っていた。どんな香りでも作り出せる朔のもとには、風変わりな依頼が次々と届けられる。…。

『総理の夫』

原田マハ/著

実業之日本社



20××年、相馬凜子は42歳の若さで第111代総理大臣に選出された。鳥類学者の夫・日和は、妻の奮闘の日々を、後世に遺すべく日記に綴る。税制、原発、社会福祉。混沌の状況下、相馬内閣は高く支持されるが、陰謀を企てる者が現れ…。凜子の理想は実現するのか？

『フクシマ、能登、そしてこれから 震災後を生きる13人の物語』

藍原寛子/著



内外の被災地を歩く、福島在住の国際ジャーナリストからあなたへ。——未曾有の災害に向き合う・安全かどうかは私が決める・「原発反対」を生き続ける漁師・子どもを被ばくから守りたい福島の子とも支援・珠洲の海的美しさをともに守りたい

『学校では教えてくれないシェイクスピア 「名作」と友達になる』 北村 紗衣/著



芋づる式に面白いことが出てきて、自分の世界が勝手に広がられてしまう。そんな突破口の見つけ方、突っ込み方を教えます！男子高校生と不真面目な批評家が、楽しく遠慮なくシェイクスピアに迫る。
・シェイクスピアは学のない劇作家だった？！
・シェイクスピアを未来に残していくのは私たちだ

『極北の海獣』 河出書房新社 イーダ・トゥルペイネン/著



18世紀ロシア、19世紀アラスカ、現代フィンランド…今はなき巨大海棲哺乳類ステラーカイギュウを巡る、3世紀にわたる息を呑む冒険譚。葛藤を抱えその復活に情熱を燃やす人々が、いま歴史を変える

『七月の波をつかまえて』

ポール・モーシャール/著 岩波書店



パパが家を出ていって以来、あらゆるものが怖くなってしまった12歳のジュリエット。旅先の海辺の町で、太陽みたいに明るいサーファーガールのサマーと出会い、気づけばサーフィンに挑戦することに。別れの予感を胸に、生まれては消えていく波を夢中で追った、とくべつな31日間の物語。

『僕らは戦争を知らない：世界中の不条理をなくすためにキミができること』小泉 悠/著 Gakken



ウクライナ侵攻、北朝鮮のミサイル、ガザでの戦闘。人はなぜ戦争をやめられないのか。ウクライナ侵攻を例にとり、「なぜ戦争は起こるの?」「話し合いで解決できないの?」など、戦争にまつわるギモンを解説した一冊。

『私たちの戦争社会学入門』

野上 元/著 大和書房



戦争を知ると、歴史と社会への解像度が激変する! 古今の戦争を振り返りながら、「誰が戦ってきたのか」「それによって何が失われ、何が作り出されてきたのか」を深掘していく。自衛隊と9条の関係をどう考えればいいのか、戦争体験者がいなくなつて以降どう伝承していくのか—といった点を、社会学の知見を用いて、客観的・俯瞰的に解説します。

『戦争の思想史：哲学者は戦争をどう考えてきたのか』



中山 元/著 平凡社
人間の歴史は戦争の歴史でもある。戦争はいかに発展したのか、人はなぜ戦争を選ぶのか、戦争なしに社会の進化は可能か—哲学者の思想から、戦争の原理を考察する。

『母なる自然のおっぱい』 実業之日本社

池澤 夏樹/著



人間は動物であった頃の生活の要素の多くを別のもので置き換えたが、実態は変わっていない。生きたウサギを苦労して捕まえて食べるかわりに、フランス料理店に行って野ウサギのシチューを食べるようになり、ヒグマに殺されるかわりに車に轢かれるようになった。しかし、どれだけ置換を重ねても生活の基本パターンは変わらないのだ。生きて、食べて、住んで、まぐわって、育てて、死ぬ。

『自由への逃走 ナオはジャーナリズムに出会っていい子でいるだけの毎日をやめた』

渡辺 周/著 旬報社



自分の外の世界との関わり方を無意識のうちに探し求めていたナオは、ある日、犬のリキに導かれてタツジと出会う。タツジがナオに伝授したのはジャーナリズムという観察方法だった。言葉を武器に巨大権力と対峙し、希望を紡いでいく高校生たちの物語。矛盾を抱きしめろ。

『詩：たのしいライト・ヴァース 日本編 世界編』谷川 俊太郎/編



日本篇/ノンセンス、しゃれ、こどもごころ…軽やかで楽しく胸を打つ上質な詩を精選。茨木のり子、矢川澄子、辻征夫、中島みゆき、ジャンルの垣根を飛び越えて魅力的な詩を詰めこんだ言葉のお弁当箱。
世界編/平易なことばで人生や日々の生活感情をユーモアとともに描く、愛すべき名作の数々。

★★★世界的ベストセラー『サピエンス全史』を書いた ユヴァル・ノア・ハラリ の『人類の物語』3部作! ★★★

『人類の物語 [1]』<環境問題> ヒトはこうして地球の支配者になった



私たち人類は、どんな生きものにも負けないスーパーパワーをもっている。遠い昔の祖先は、そのおかげで世界を支配してきた。人間だけがもっているスーパーパワーってなに?それがわかれば、私たちは世界をもっと変えていけるはず! ユヴァル・ノア・ハラリが、その秘密をあきらかにしてくれる。驚きの歴史の物語がはじまる!

『人類の物語 [2]』<平等> どうして世界は不公平なんだろう



世のなかには、裕福な人と貧しい人がいる。支配する人とその命令に従う人がいる。その不公平だ! 実は最初から世界はこれほど不公平ではなかった。人類が誕生して地球に広がったあとに、不思議なことが起きて、すべてが変わった。いったい何が起きたのだろうか?それがわかれば、私たちの手でもっと公平な世のなかを作っていけるはず!

『人類の物語 [3]』<多様性> 世界はちがう人どうしてできている



「みんなとちがう」は変じゃない!「何かが変わるためには、だれかが新しいものを最初に受け入れる必要がある——だれかが、みんなとはちがっている必要がある。かつて祖先は、海をわたって見知らぬ場所にたどり着き、見知らぬ人たちに会った。そして、その人たちとも力を合わせることでできた。

社会に出る前に知っておきたい

「働くこと」大全 水町 勇一郎/著



なぜ働かないといけない?どんなふうに働く?困ったとき誰に相談すればいい?全社会人、中・高・大学生に必要な「労働に関する知識」。本書で、「働くこと」に妙に詳しい年齢不詳の伊達に、高校生のさくらと悠太、大学生の真由、社会人2年目の宇野が質問し、教えてもらうというストーリーの流れに沿って展開します。「自分なりの労働観」を構築できる

『不確実な時代を生きる

武器としての憲法入門』大城 聡/著



実は役に立つ!大地震、コロナ禍、カルト宗教、ブラック企業、生成AI身の周りの問題を考え、自由に自分らしく生きるための憲法入門。憲法は困難に立ち向かう最強の武器だ!

『役に立たないロボット 谷明洋/著 日本が生み出すすごい発想』



ロボット大国といわれる日本には、本来の目的であるはずの「労働」をしないロボットたちが、たくさん存在している。この世界的に例のない不思議な傾向の根底を探っていくと、「ロボット」でなければなし得ない役割と、本当の価値が浮かび上がってくる。彼らには、愛玩や癒しを超えて、人に影響をもたらす、社会すら変えてしまうほどの力が隠されていた。

『現代人を救う アンパンマンの哲学』

物江 潤/著



「何のために生まれ、何をして生きるのか」「人生は喜ばせごっこ」やなせたかしは、暢夫人と二人三脚で運命を切り開く。大人から酷評された「アンパンマン」がTVアニメになり、日本中から愛されるようになったとき、やなせは、すでに70歳間近。ついに自分の作品の「理想」と一体となった。やなせの生涯と作品世界をたどり、今こそ必要な「哲学」を解き明かす。

『一度読んだら絶対に忘れない英熟語の教科書』牧野智一/著

『一度読んだら絶対に忘れないビジネス英語の教科書』牧野智一/著

『一度読んだら絶対に忘れない古文の教科書』辻孝宗/著

『語源語感イメージでござそり覚える 英単語事典』すずきひろし/著

『自己肯定感が高くないとダメなのか』榎本 博明/著

『AIを美学する』吉岡 洋/著

『新プロジェクトX 挑戦者たち』NHK「新プロジェクトX」制作班/著